

編集室から

今月の表紙写真は、昨年開かれた地域づくり団体全国研修交流会・兵庫県大会に参加した際の一コマです。年に一度開催される同会は、全国からツワモノが揃い、旧交を温めつつ新しいツワモノに出会える貴重な機会の1つです。

幾つかの分科会が設定されますが、この時も以前から交流を頂いているKさんの分科会に参加しました。やはり「地域づくりとは何か」を熟知されておられる方の構成は違います。この国の神話時代にも遡る歴史と、連綿と続く人々の暮らし、そして現代。大きな時の流れと、その大切さに触れさせていただきました。

今年、本来でしたら今頃の時期に長崎県大会で開かれているはずでしたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で、延期。昨年出会い、意気投合して「必ず行きます」とお伝えした壱岐の方々はどうなさっておられるでしょうか…。

東日本大震災を始めここ数年、災害の影響で開催が見送られることが度々起こっています。その度に、現地の仲間の状況に、思わず心を寄せてしまうのは、やはり「思いを交わす間柄」になっているせいかもしれません。「交流」には、単に時間や飲食を共にする以上の何かが存在すると思うのです。

新型コロナウイルスが納まらぬ中、石川県地域では、毎年開催している県大会「地域づくり円陣」を初めて県内外をリモートで結ぶ形式で開催しました。近年のICTのお蔭ですが、何よりもそれ以前から持続的に全国の方々と人的交流を重ね続けさせて頂いた資産のお蔭です。

いざというときに、それ以前に普段のコミュニケーションがものをいうことは、阪神淡路大震災からの教訓ですが、これは何も減災・防災の現場に限った話ではないと思います。

能登では如何なる結果も「平生行状」と言います。慎み・励みたいものです。（は）



のと
だらばち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらばち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらばち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2020/11
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

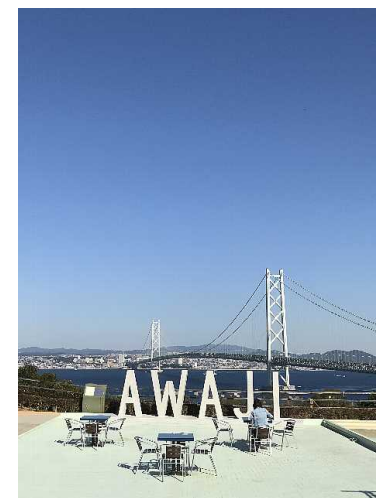
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp



2020/11
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

霜 月

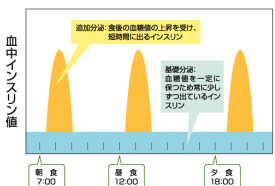


兵庫県淡路島にて
by hama

「一型糖尿病の血糖制御は難しい」

引き続き、一型糖尿病の話です。日本人の約千人に一人が一型糖尿病で、常にインスリンを使って血糖調節しながら生活をされています。以前も述べましたが、インスリンが物質として発見されたのは一九二一年で、来年で百周年になります。その翌年には早くも薬剤として使われ始め、更にその翌年の一九二三年には日本へも輸入されています。最初は合成することなど出来ませんでしたから、豚の膵臓を集めて作りました。抽出技術も低かったので、文字通りヤマのような膵臓からバイアル一本を作るのがやっとだったそうです。

健康人の血中インスリン濃度は、（グラフ）で示すような二種類の分泌が合成して出来ています。ほぼ一定で少量の基礎分泌と、食事で誘発される追加分泌です。基礎分泌は、空腹時に肝臓が作る血糖の量を制御しています。この制御を乱すのが脂肪肝だという話も、以前にしました。追加分泌は、食物の吸収による血糖上昇を抑えるため適正なタイミングで充分な量が必要です。インスリンは糖尿病の治療薬として最も長い歴史を持ち、最も強力であり、様々な改良が加えられてきました。それに並行して、注射に使う器具や血糖測定器も著しい進歩を遂げています。その結果、一型糖尿病の人でもグラフのようなインスリンの動きを外からの注射でほぼ再現できるようになりました。にもかかわらず、一型糖尿病はいまだに高血糖による合併症や低血糖による昏睡をゼロにできない疾患です。そして最新の血糖測定器フリースタイル・リブレ（写真：貼っておくだけで一分おきの



連続測定が十四日間可能です」によって、インスリン注射と食事と運動だけでは説明できない不可解な血糖変動が存在すると判ってきました。

「インスリン注射の限界とグルカゴン」

血糖変動の原因は、グルカゴンでした。グルカゴンには、血糖を速やかに上昇させる働きがあります。インスリンとは真逆で、ちょうどアクセルとブレーキのような関係です。いま二型糖尿病の治療薬として最も多く使われているDPP4阻害剤や、痩せ薬としての不適切な使用が問題になっているGLP1受容体作動薬は、共にグルカゴンを抑える働きを持っています。

グルカゴンも、膵臓のランゲルハンス島で作られます。（イラスト）を見てください。インスリンを作るβ細胞と隣あうように、グルカゴンを作るα細胞があります。ランゲルハンス島の中には毛細血管があり、その血流はすべてβ細胞からα細胞の方向へと向かっています。β細胞から分泌されたインスリンは、全身に拡散する前の高い濃度で隣にあるα細胞を包み込みます。残念ながら、皮膚から吸収されるインスリン注射では再現できません。そしてインスリンこそが、グルカゴン産生を最も強力に抑える物質なのです。α細胞は、様々な刺激に反応してグルカゴンを分泌します。β細胞は母親のように隣で睨みをきかせ、悪戯っ子のようなα細胞を調節しているのです。



【プロフィール】
（いがき としお）金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

濱の起業塾 十九『概論①』

自らも二度起業し、数々の社会事業の起業・創業・事業開発をお手伝いさせて頂いた道程を振り返ると、一連の起業活動には、大きく六つのプロセスがあると考えている。これまで本欄では、各プロセスを三回ずつ、十八回を通じ、概論としてご紹介させて頂いた。

曰く「立志・機会・着想・試行・検証・起業」。実際の現場で活動に携わる方々が、このプロセスを自覚されるかどうかは別だと思う。ただ、自覚していた方が、ことを確実に進められるし、障害が発生して前に進めなくなったとき、どの局面まで立ち戻って検討し直せばよいか、その判断も的確に為せることと思う。

起業活動を最も効果的に停止させる唯一の方法は、「諦める」ことである。検証段階で不都合な現実遭遇したとき、試行すべき課題の設定がずれていたのか、着想そのものが時代に合わないのか、そもそも

もチャンスと見た機会の捉え方に錯誤があったのか…。活動そのものを諦めてしまう前に、検証すべき事は幾らでもある。

元来、社会事業は需要が見えにくく、かつ採算を合わせ難い時代の先端市場を切り拓こうとする性格のものである。コロンブスの卵のようなもので、ノーヒントだと答えに辿り着きにくいのが、「検証を繰り返して、着地点を探し続けていく過程自身が、事業運営ノウハウの蓄積である」と目線を変えたなら、誰も為し得なかった社会事業への新しい途が、自ずから啓けてくる。

お見通しの鋭い方は既にお気づきかと思う。事業は、企業でも社会事業でも起業家・創業者の想い・志そのものであり、行政では首長・首脳陣の政策指向であって、こちらも志である。だとすれば組織の内外で、その志の実現化を共に目指してくれるスタッフ・外部人材は、起業家にとってどのような存在か。自明であろう。彼らは、自分（起業家）の志・ビジョンに共感して人生を共にしてくれる（命を提供してくれる）仲間である。担ぎ手の居ない神輿は微動だにしない。



浮き草のごとく103 福井県立大学 地域経済研究所 江川 誠一 『働き蜂という生き方』

オオスズメバチを庭で見かけるようになって2ヶ月。石塔の地中部分に巣があるようで、1分間観察すると、その周辺の茂みで10匹程度の出入りがある。

オオスズメバチは体長30~40mmと親指大の堂々たる体躯を誇り、気性が荒く巣や餌場に近づくだけで、大きな羽音を響かせて向かってくる。続いて顎をカチカチと鳴らすのが最後の警告となり、立ち去らないものを敵とみなし激しく攻撃する。毒液には仲間を呼び寄せるフェロモンが含まれているため、ターゲットは大勢に囲まれ何十か所もずぶずぶと刺される羽目になる。

決定的な敵認定を回避しつつ、行動観察を続けたのちトラップを設置し、30匹程を捕獲した。仕掛けは、日本酒3：酢1：砂糖1のミックスジュースをペットボトルに入れ、その上部に窓を開けたもの。来年、再生産されないことを祈りたいが、この程度の捕獲では難しいだろう。

獐犢な性格の他に私が興味深いと思うのは、その見事な社会性である。

スズメバチの成虫は、日中足繁く餌場へ通い、コガネムシやイモムシ等を狩り大顎で肉団子状にした上で巣に持ち帰る。それらは自ら食することはなく幼虫に与え、幼虫の分泌する液体と交換される。成虫はこの分泌物と樹液をエネルギーにして、巣の拡大と守護にその一生を捧げる。こうして個体数の増えた巣では、秋に多くの新女王蜂と雄蜂が生まれるようになる。その後、新女王と雄はハネムーンに出かけ交尾し、その雄蜂と巣に残された働き蜂は生涯を終え、新女王蜂のみが冬を越す。春になると女王蜂は一匹で活動を開始し、巣作りと並行して働き蜂を生み育てる。働き蜂の成虫が増えてくると女王蜂は巣に籠り、卵が尽きるまで産み続ける。

“One for all, All for one”と人はわざわざ言葉にするが、極めて社会性の高いスズメバチの世界では、当たり前な行動である。

“1匹はコロニーのため、コロニーは一つの目的のため”であり、目的とは“新女王を数多く誕生させ、次世代へ命をつないでいくこと”である。人からすると、スズメバチの働き蜂は犠牲を一方的に強いられる上に、自らの子を残すことができないかわいそうな存在に思える。しかしながら、コロニー全体を一つの生物体とみなせば、働き蜂はコロニーの目的達成に向けて邁進する存在であり、その重要な役割に満足しているのかもしれない。

多くの高等な生物にとっては、個が自分の遺伝子を数多く残すことが目的となっているが、集団で種の存続を図る仕組みはこれとは異質なものである。多様性とは何か、共同体とは何か、競争原理の合理性を過信していないか。色々と考えさせられる。

『国民感情という言葉が最近よく耳にしますが。。。』 株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

東池袋自動車暴走死傷事故のニュースを見ていて「あつまたこの言葉が出た」と思ったのがきっかけなのですが、最近『国民感情』という言葉をよく耳にします。

自民党総裁選や学術会議の推薦人任命拒否など、昨今の様々なニュースを見るときにコメンテーターや政治家の口から出てくるのが、この『国民感情』という言葉です。ウィキペディアで調べてみると『国家においての一般庶民である国民が、自分の国家や国家の政治家に対して抱いている感情である。これは国家の上層部が公式に発表している声明とは異なった形に国民が抱いているということである。』なるほど。

安倍さん時代の桜を見る会やエリート官僚による公文書書き換えや隠蔽問題など確かに一国民として「それどうなの？」というのは確かに国民感情なのかなあとと思いつつも、同時に気になったことが2点ありまして。国民の何割が同じ感情を持つと国民感情と言えるのか？国民感情>法律という図式が許されるのか？ということです。

1については、単純に国民感情って言うけどみんな同じ感情なの？それとも何割以上という規定あるの？ということです。「いやいや僕は、私はそう思わないよ」という方が間違いなくいると思いますし、せめて言葉として使うのであればどのくらいの国民がそう思っているのかという根拠やその定義は明確にしないと思うのですが。聞く方にとっても耳障りがよく、さも彼の意見は国民・庶民の意見を代弁しているんだ!!と思わせてしまう、非常に使い勝手のいい言葉になってませんか？もっと言えば、“国民感情”という言葉を使うことで、今までそう思っていなかった人間を自分にとって都合のいい方に導く一種の洗脳では？公共の電波を使って言葉を伝える人間であれば、そう安々と使っている言葉ではないかなあと感じるのは僕だけかなあ。

2は“あおり運転”の裁判でよく聞く言葉なのですが、確かにあおり運転なんぞをする人間はクズです。それで大切な人の命を奪ったとなると死刑にしろとも思ってしまう。しかし冷静になると、感情が国が国として成立するための根本である“法”を飛び越えて刑罰を与える基準になっていいものなのか？という点で非常に恐ろしいなあと感じます。

昨今のネット社会でSNSによる個人攻撃が拡散し一人の人を追い詰める。これも狂った国民感情による暴力だし、そのような暴力的な感情による圧力がSNSだけでなく裁きの場においても影響を与えるというのはどうなん？と。法が現在の社会環境と乖離しているのも原因なので整備も急務ですが、それと並行してメディアや政治家が国民感情という言葉で国民を煽動する“あおり運転”していませんか？ということは今一度考えてほしいなあ。

『富士の国から ～大魔神のたび～ 』 富士紡遺産復活物語② 神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

ここの収蔵庫には富士紡からいただいた戦前からの資料が、資料室には昔の写真や図書が保管してある。その中に永久保存と書かれた布袋があり、中には関東大震災の記録が入っていた。この時富士紡工場は倒壊、全焼で壊滅だった。この被害状況はもとより、被災者の親御さんに宛てた通知文、見舞金のこと等、大変な状況が伝わってくる。残念なことに、この時に震災前の貴重な資料が燃失してしまっている。それにしても明治時代に誕生した一企業の社内資料を自治体が持ち、皆の目に触れる環境にあることが、この西洋館の2階の大きな価値なのである。

富士紡遺産の復活のもう一つの大きな事業が森村橋の復元だ。最初見た時、錆びついたレトロな橋なんだけどメカニカルなデザインで変わっている、しかも「森村橋」って地名でもない名前が付いている。「なんだろうな？この橋」が最初の印象だった。橋の謂れを周囲の役場職員に訊いてもまともに説明できる者はいなかった。もっとも、豊門会館についても似たような状況だったけど。役場には各種資料や文書がハードディスクに保存されている。たまたま、文化財登録に尽力した当時担当されていた土屋さんが残してくれたファイルを目にした。ここに開橋式の写真があった。鳥肌が立った。橋を渡るは紋付き袴の老人と着物姿の老婆、遠目に眺める山高帽の紳士。この老夫妻こそ岩田蜂三郎夫妻であり、時の富士紡会長の濱口吉右衛門だ。

「森村橋」と書かれた橋名板、唐草模様の装飾、ランプ、凝ったデザインの欄干。富士紡の工場に入るには、この橋を渡らなければならない。そう玄関口なのだ。でも、森村橋に装飾の類は全て無かった。橋自体も錆びついていて、新森村橋ができてからは、橋としての用が無くなり通行止めになっていた。この荒廃感が受けたのかロケの場面にはたびたび登場した。橋に想い出深い人からは、錆びついてはっとかれるのが辛かったのか、町へ何とかしてくれとの要望が来ていた。さて、どうしたものか？森村橋も豊門会館同様に国の登録文化財になっている。粗末にはできないけど、使ってもいない橋をどうしたらいいものか？錆を落として塗装し直すぐらいが精いっぱいか？込山町長からは「足柄ふれあい公園に駅からすぐに着けるように移設したらどうか」と言われた。「普通に橋を架けたほうがはるかに安いですよ。それに、場所を変えたら森村橋の意味が無くなってしまうのでは。理想は開橋当時の姿に戻すことですよ」と反論したが、果たしてできるものなのか？製作は「東京石川島造船」、今のIHIだ。町長が参加する東京で開催される「ふじのくに交流会」名簿にIHI顧問の名前を見たので、ここにアプローチを町長に頼んだ。「顧問は欠席だったが、隣に座った初対面の佐藤さんにこのことを話したら、IHIの役員を紹介してくれることになった。」とのこと。早速、吉田取締役が現場を見に来てくれ大変な驚きを示され、協力を約束してくれた。でも、ただで改修してくれるなんてことはなかった。そしてIHIエンジニアからは「復原の設計図がないとできない」とつれない。

そうこうしている内に、ふるさと寄附金が集まりだしていた。設計は何とかなりそう



だ。でもこんな特殊な設計やるところあるの？とりあえず、橋梁設計に実績のあるコンサルタントを対象に設計プロポーザルを出しところ、渾身の設計提案が5社から出され、八千代エンジニアリングに委託することになった。設計途中には富士紡から過去の資料しかも図面を受け入れることになった。その中に森村橋の装飾の図面も設計書もあった。豊門公園の駐車場側に造った門もこの時に出てきた図面が元になっている。

復元工事費を新たに造るならこの程度2億円と踏んだら、とんでもなく倍の金額になってしまった。復原の方が新築よりもはるかに高い。というも橋の床下部は錆がひどくて橋をはずして工場に持って行きオーバーホールしないとこの橋の構造の肝と言えるピン接合が復元できない。橋を外すために支柱を鮎沢川に立てるとなると急に水かさが増えると危ないので渇水期の冬場にしかも架ける際にまた使う支柱は、そのまま川に残すことができない。そこで、仮の橋で森村橋を挟むように架けて、ボルトで結びつけてから森村橋を徐々に切断してもっていくことにした。この工事の様子は定点カメラで撮影し、工事の進行を西洋館2階の歴史ギャラリーのモニターで見ることができるようにしてある。

橋床より下部は全て新規鋼材を考えたが、実際には約60%もの部材を再利用することに成功した。格点周りを除くほとんどの箇所を残したからだ。また、外観を自然に見せるために、新規鋼材との溶接継手を多く採用している。

復元に使わなかった部材もそのままスクラップにするのは惜しい。なにせ明治39年当時の鉄材、国内生産がままならないからドイツそして米国製の鉄材を使っている。それを活かしたい。そこで大学・高専に声掛けしたところ、研究材料として使いたいとの声が上がった。ならば、ここ小山の地に残す必要はない。旅してもらうことにした。森村橋の材料そしてその時代が広がっていく、実に面白い。

昭和43年の補強部材は広場に設けたベンチ屋根のフレームとして残した。ベンチは五脚、ここにも豊門公園のベンチ同様に寄附を求めた。20万円を寄附していただければ、お名前とメッセージを書いたプレートを付ける仕掛けだ。富士紡の研究家でもある筒井滋賀名誉教授、橋の袂に住む松本さん、本事業を進めた込山町長、そして四国加工機、IHIが賛同してくれた。1m×2mの説明版には架橋から復原の歴史、この事業に寄附してくれた各社、携わった方々を掲載した。

そして、ここに4.2億円もの巨費を投じた森村橋復原事業を完了した。平成28年の企画から4年の歳月を経ての令和2年10月のことであった。ことを興した込山町長も溝口まちづくり専門監もすでにその立場を去った後のことである。（了）

